

諫早市教育委員会議事録
令和4年第8回（7月定例）

令和4年第8回（7月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年7月27日（水）
14時00分～15時05分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 8-2会議室
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 後田 一光
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 諸岡 昌史
- 5 議題
報告第8号 臨時代理の報告について（諫早市社会教育委員の
委嘱について）
報告第9号 臨時代理の報告について（諫早市公民館運営審議
会委員の委嘱について）
議案第15号 諫早市図書館協議会委員の委嘱について

議事録署名人の指名

原田委員と山口委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

全議題人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和4年第7回（6月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

教育委員会の7月の動きについて

まず、コロナの動きについて、私が分析した内容について報告するので、皆さんからもご助言などをお願いしたい。

新型コロナウイルスの月別の感染者数であるが、ご存知のように、今爆発的に増加しており、昨日、諫早市では177人、県全体では2,029人と、全ての地域で感染者が出ている。感染力の強いオミクロン株への置き換わりが急速に進んでおり、第7波の到来だと言われている。ただし、重症化率及び致死率は低いようである。

小中学生のコロナ罹患者数であるが、4月は小学生が184人、5月は152人、6月は263人、7月は243人。7月は25日で締めているので、実際は6月の263人を今日時点で超えていると思う。4月以降今までで一番多い。中学生では4月が一番多く、

7月は50人を超えるのではないかと考えられる。

学年を見ると、小学校の場合は児童数に対する罹患率が、1年生は159人で13.3%。小学校1年生が一番多く、2年生が12.9%。ほとんどが10%ぐらいだから、10人に1人は罹患していることになる。中学生では、6.2%、6.0%、6.3%なので、小学生の約半分ということが言えると思う。

県中総体が行われているが、ここでも感染者が出ていると聞いているし、現在、夏休み中であり、旅行やお盆の帰省などで人の動きがあるので、もう少し感染者が増えるのではという感じがする。

4月にまん延、5月に収束に向かいかけたが、6月、7月に再び諫早を含めて全国的にまん延した。小学生で罹患率が高く、特に小学1、2年生が多い。引き続き毎朝の検温、手洗い、消毒、換気、マスクの着用などを徹底し、屋外では熱中症対策としてマスクが必要でない場合は、マスクを外すことを推奨する。

熱中症についても気を付けなければならない、全国的にも7月になって非常に増えてきているので、コロナもだし熱中症も注意が必要である。

罹患してしまった場合、大人の社会では、面と向かって言われることはないと思うが、子供たちの中では、いじめや差別などがあると思う。そして、自殺者も増えており、コロナの影響により、うつ状態になるということがあるのかもしれない。特に仕事をしていなければ、社会と断絶したような感じになり、家に引きこもりみたいになってしまうので、特に年配の方はきついのではないかなと思う。

夏休み中は事故ゼロでいきたい。コロナ渦にあって、例年以上に子供たちは海や山、川などに行く機会が多いと思う。毎年、池や川で事故があっているのも、絶対そういうことがないよう危険予知能力を身に付けることが大事だが、大人の責任もあると思う。また、部活動についても、熱中症に注意しながら練習や試合に臨んで欲しい。根性論とかではなく、健康管理を指導者に気を付けていただく必要がある。

[委員]

保健所との懇談会みたいなものが週1回あるが、20代、30代の感染者が増えている。今は自宅療養するため、お父さんが罹れば一家全員が感染することもあるので、子供同士での数がそれほど増えているわけではない。前に比べて、やはり20代、30代が明らかに増えており、3回目のワクチン接種率と罹患率を世代別にする、きれいに逆になっている。だから、3回目を打っている年代は少ない。20代、30代は3回目の接種率が悪いので、どうしても

20代、30代の罹患者が多く、20代、30代の罹患者がいるということは、小さい子がいる家庭が結構多いので、両方で数が増えているようである。

できるだけ3回目接種を皆さんが受けてくれれば良いと思う。やはり予防接種が一番大事である。3回目をなるべく打ってもらって、4回目を打てるようになった人は4回目を打つ。そうすれば罹らないことはないかもしれないが、罹ったときに全然違うのではないのかなと思う。

子供に関しては夏休みに入っているが、大人が罹れば子供が罹るということがあるので、そこまで減らないかもしれない。クラブ活動がどうなるのかというところもあるが、爆発的に増えることはないはずだと思っている。

熱中症については、前回の教育委員会でも話をしたが、熱中症に関する活動の基準が昔からきちんと思うが、基準どおりにすると、活動できないということにすぐになってしまうので、結局あまり守られていないのではないのかという気がする。毎日基準による判断をしていけば、今日は特に危ないとかいうのはわかるはずであると思う。

[教育長]

根性論ではいけない。暑さに慣れろとか、このくらいは大丈夫だとか。

[委員]

この前、熱中症のWEB（ウェブ）での講演があったのだが、水、お茶では不十分みたいである。塩分が結構抜けるので、スポーツドリンクでも不十分で、経口補水液ぐらいの塩分濃度があった方がよい。スポーツドリンクは、糖分が多く塩分濃度は低い。WHOが脱水症状のときに推奨しているような塩分濃度のものを、スポーツのときも摂った方がよい。それで、喉の乾きに関係なく飲むこと。塩とお水でもよいかもしれないけど、塩だと摂りすぎになる可能性がかなり高く、梅干し1個となると確実に摂りすぎになるみたいである。

[委員]

コンビニにある塩分チャージの飴、タブレットではどうか。

[委員]

塩飴などは、塩分の取りすぎになる可能性がある。だから、塩飴と水でも塩分の取り過ぎになる可能性があるようなので、おすすめではない。ちょうどいい濃度で一番無難なのが、経口補水液だということであった。

[教育長]

次に行きたいと思う。2番目の学力向上についてであるが、4月に行った県学力調査、全国学力調査の結果がでている。

諫早市は、残念ながら県平均よりも下回っている。昨年も小学校も中学校も下回っていた。全国学力調査は対象が小学校6年生と中学校3年生になるが、ほとんど県の平均と変わらない。上回っていないので、市町別の結果では無印になる。

県学力調査では、小学校5年生と中学校2年生が対象になるが、小学校5年生の国語が特に厳しかった。読む力、書く力、聞く力、話す力を日常の中で鍛えることが必要である。今年、夏休みにタブレットを持ち帰るようにしている。各学校でそれぞれ工夫をいただいているが、タブレットを使った学習や読書などで国語力を育てていければと思う。

また、無答率が県平均よりも多いというのが諫早市の特徴で、これについては危機感を持っている。無答率ということは、答えていない。特に、後半の点数が高いところが無答である。結局、そこまで行き着いてないということも一つあると思う。一番から解いていき、後半部分まで行き着いていない。

もう一つは、最初から諦めているのではないかということもあるので、しっかりと対策をしないといけないと思っている。部分点ももらえない。

学力テストというと、そのために授業しているのではないと言われるが、学力テストの問題はすごく練られている。日頃の授業の中でしている基礎、基本と、それに思考力、判断力、表現力を見るような問題となっている。要するに、学習指導要領にある勉強の方法をきちんとしていると解けるような問題である。

だから、そのための勉強はしてないということは、その勉強そのものがどうなのかということがある。例えば、長崎県の県立中学校の問題や高校入試の問題も非常に良い問題である。だから、その問題がスラスラ解けるような子供を育てるということは、それだけ授業が学習指導要領に沿っていることになる。これを目標にするということで、8月の中旬に全ての副校長、教頭先生を、小学校の大規模校、中規模校など、グループごとに日にちを変えて集まってもらい、どうすれば学力が上がるかを7～8人ぐらいでディスカッションをするようにしている。

他の学校の取り組みで、これは良い取り組みだと思ったら、持ち帰って自分の学校でもしてもらおう。非常に楽しみである。今まで、そういうことをしたことがないということだが、自分の学校の点数は

全部わかっているわけだから、他の学校がどうしているのかとか、なぜ厳しいのかとか、なぜ良いのかということが分かってくるのかなと思っている。

[委員]

正確には覚えていないのだが、福井県が多分成績が良いと思う。ある先生が言っていたのが、福井は小学生の9割ぐらいが9時までに寝ている。自分のところは成績悪いけれど、みんな10時まで起きている。「早寝早起き」の早起きは一生懸命やっているけど、遅寝早起きになっているところが多いので、遅寝早起きだと睡眠時間が短くなり、昼間ボーッとして過ごさないといけない。「早寝早起き」の早寝がおろそかになっているから、早寝をしっかりとやって、小学生は9時前に寝せる。そうすれば成績が上がるということをやっていた。

[委員]

個人差はあるかもしれないが、何時間ぐらいが理想なのだろうか。

[委員]

個人差はあるが、少なくとも高校生で8時間ぐらい。7時間は最低である。中学生になると、それが8時間から9時間ぐらいになって、小学生になると、低学年だと10時間から12時間ぐらいで、高学年でも9時間から11時間。9時間は理想的に必要。今年、多分OECDの睡眠の統計が出るのだが、OECDの各国の中でも日本が一番短い。2018年に出た統計でも、~~断トツ~~の最下位である。2014年のときは韓国が最下位で、日本が下から2番目だけれど、2018年で、日本がさらに短くなったので、最下位となった。子供の睡眠時間も小学生で8時間寝れば十分だと思っている親がいるので良くない。他の国の平均から見ると、明らかに1時間から2時間少ない。欧米だと中学生で9時間ぐらい寝ており、1時間から2時間、日本の常識から長く寝ている。スイスでは特に長く寝ている。

睡眠は、最初深く寝て疲れをとる。その後、浅くなっていきレム睡眠となる。レム睡眠は睡眠の後半に出てくるので、レム睡眠のときに記憶を整理して、きちんと定着させる。だから、睡眠時間が短ければ、必ずレム睡眠が短くなるはずなので、記憶の定着、運動にしても同じだけれど、運動して覚えた技を小脳に定着させるのがレム睡眠のときなので、レム睡眠が短くなれば当然定着が悪くなる。従って、毎日1時間から2時間、レム睡眠の時間が短くなれば、それが毎日積み重なっていくわけだから、成績や運動能力に影響する。

もう20年以上前のデータであるが、午後10時半より前に寝ている子と寝ていない子の日本の小学校4年生のデータで、10時半

より前に寝ている子の方が成績は良いというデータがある。それからも睡眠時間は短くなっており、テレビゲームでもっと遅くまで起きている。仙台の中学校の有名なデータでも、スマホを長くやっていると、勉強してない子より成績が悪くなるというデータがあるので、ゲームの時間をいかにコントロールするのか、というような教育を家庭でしっかりするかということと、睡眠をきちんととらせるかということが、学力向上にはとても大事なことだろうと思うので、そういう教育をお願いします。

[委員]

家庭の環境も必要。食事が遅かったりしたら、寝るのも遅くなる。

[委員]

共稼ぎでお母さんが遅いところは、指導のしようがないところもあるが、少なくとも小児医会もずっと前から、小さい頃は2歳まではテレビを見せるなどか、1時間にしなさいとかいうことをずっと言い続けており、とても大事である。小さい時にしっかりと教え込むことが必要であり、小学校ではかなり遅い。特に、ゲームに関して言うと、し始めるのがどんどん早くなってきているから、早い段階で親も含めて教育をした方がよい。ただ、する場があまりないし、きちんとしている人は、講演やいろいろなものを聞いてくれるけど、聞いて欲しい人はそういうところに来ないし、永遠の課題である。しかし、そういうことが大事なので、継続的にした方がよいと思う。

[委員]

メディア講話の中でも、ここ3年ずっと睡眠の大事さを中心に話をしており、子供達には「勉強ができるようになったりするいいことってなんだ？」や、「睡眠時間が短くなるような邪魔をしているものはなんだ？」などクイズ形式にして質問をしている。

また、先ほど委員がおっしゃったように中学生でも理想的には10時間、最悪でも8時間は睡眠時間が必要であるとか、OECDのデータとかを、子供たちを通じて保護者にも伝えるようにしている。とにかく睡眠は良いことばかりであるということを訴えていて、例えば、学校から学習タブレットを持ち帰るときに、保護者の方に聞いていただいたり、雲仙市では入学説明会の際に必ずメディア講話があるのだけれど、その中でも話をしたりしており、全ての保護者が、そういうことを聞く機会があればありがたいと思う。

委員がおっしゃられた東北大学の川島先生のデータについてメディア講習で説明することがあるが、メディア使用時間1時間を境に成績が落ちていく理由が2つあって、1つはながらスマホ。2つ目は単純に寝る時間が遅くなるから、次の日はどんなに先生が立派な

授業をしても眠たくなるという話をしている。

[教育長]

次に、中学校の部活動の地域移行についてである。昨日から今日にかけて都市教育長会議が佐世保であった。その議題が部活動の地域移行で、私自身部活動は学校教育の中の一つという捉え方であり、誰よりも文武両道というものを実践したつもりなので、地域移行についてはピンとこないのだが、マスコミでも盛んに言われており、文科省やスポーツ庁で令和5年度から3ヶ年かけて地域に移行すると言われている。

私は、今回の都市教育長会議で、いろいろな面で他の自治体の進んだところを参考に良いところ、悪いところを聞いて、諫早版地域移行みたいにしていこうと思っていたが、他の自治体も全く同じように模索が続いているという状況であり、進んでいる自治体はどこもなかった。一部ではしているところもあるけれど、ほとんどが動いていないような状況で、最終的には、できるところからやっていくことになると思う。

諫早市を見たところ、陸上競技は地域移行ができるのではないかなと思う。既に合同練習、若しくは記録会など、盛んに陸上競技ではされているので、必ずしも学校でしなくてもできると思うが、団体競技がどこまでできるかっていうことである。例えば、野球をとってみても人数が足りずにチームができないところがある。では、そういうところを地域にと考えるが、学校対抗となると、自分の学校を勝たせたいとか、チームワークだとかいうことになったときに、地域移行はどのようなだろうということがある。なお、サッカーもある面ではクラブチーム的な場合があるので、できるかもしれない。

地域移行は非常に難しい問題であり、外部指導者がいる競技とない競技がある。また、指導者の問題でいうと、特に中学校の先生の中には部活動にすごく熱心な先生もおられて、そういう先生たちのモチベーションをどのようにしていくかという問題や、外部指導者に対する研修も必要だと思う。現在、体罰は絶対に学校教育の中ではしないとしているので、体罰等についての研修や、試験前の配慮について勉強優先であるということも外部指導者には、分かっていたかかないといけない。そして、指導料も必要となるので、そういった問題もある。

また、文化クラブでは吹奏楽部ひとつとってみても活動する楽器の移動をどうするのかなど、非常に難しい問題もある。そのようなことで、『部活動のあり方を検討する委員会』を今日行っている。中体連の会長や校長会の代表といった人たちを集めて協議を始めた

ところである。解決すべき問題としては、現行の教育の一環という位置づけを、生徒指導のあり方と共にどうするのかである。部活動は生徒指導でもあり、土日も含めて子供たちの健全育成に寄与しているところがある。また、教員の指導のあり方についても、先生と部活動の指導者とどちらもしてブラック企業みたいに言われているところから今回の改革はきている。しかし、負担になるという先生たちと、それを生きがいにしてしている先生たちがおられて、そういった先生たちの問題、外部指導者の確保と報酬の問題、指導の一貫性、研修、生徒の活動場所、経費の負担の問題など解決すべき問題は山ほどあるので、これらを一つずつ潰しながら取り組んでいくというのが現状である。

[委員]

2点あるが、1点目が以前少し話題に上がった、例えば、諫中のバレー部のように、部活動ではあるけれども、社会体育のように活動しているところが、多分、諫早市内にたくさんあるかと思う。実際、そういう部活がある中学校にメリット、デメリットを聞いてみたり、感じるどころだったり、生徒の様子だったり、報酬の問題、体罰の問題など、どのように現状でしているのかを聞き取りしていくのもよいのかなと思う。陸上なども社会体育化しているところが多いと思うので、先行事例として聞き取りをするのはよいのではというのが1点目である。

また、私が話を聞いたところでは、長与町が先行事例でされているということであった。長与町がモデル地区でされているときに、グランドデザインなども組み立てられていると思うので、長与町からいただけるような資料があれば参考になると思う。長与町は部活動の地域移行に対して予算をかけていると聞いた。見せていただける部分だけでも良いと思う。

[教育長]

生徒や保護者のニーズ、教員の意向など、そういうアンケートも必要になるという感じはしている。事故が起きたときの問題もあるし、簡単な問題ではない。保護者負担が増えることになると、経済的に厳しい家庭の子どもは、部活動ができないというようなことにもなる。要するに、塾に行くようなものである。また、環境を整えるためにどうすればよいのか、諫早はスポーツの街ということで進んでいると思うが、いろいろな問題があるので、この教育委員会でも随時取り上げていきたいと思う。

最後に、諫早市のPTA連合会について話題提供である。新しい役員の方が6月24日に市長訪問され私も同席した。PTAとはい

ろいろな活動をされているが、保護者の団体なので学校の応援団でもあるので、市も保護者をお願いしないといけないことがある。保護者の協力なくして教育は成り立たないので、保護者の方の理解と援助も必要という話をさせていただいた。

都市教育長会議で出た話題について、先日、市に爆弾メールと誘拐メールが届いた。諫早市では、取り締まりと犯人の特定を警察にお願いしたが、特定はできないため巡回をするとのことであった。大村市は、市長と教育長の連名で大村警察署長にお願いの文書を出したところ、少し協力をしていただいたそうである。全国的にメールが届いていたみたいなので、できれば全国の教育長、若しくは長崎県内の教育長でもよいので協同して取り締まりを徹底してほしいというお願いができないかという話があがっていた。

やはり、保護者の方も誘拐するとか、爆破するとか聞くと心配だと思う。だから、警察には本気で動いてもらわないといけない。私が一番恐れるのは、模倣犯、真似る人が出てくるということである。メールを出している犯人自体は考えていないかもしれないけど、それを真似る人がいる。そういう犯罪が起こらないようにしなければいけないと思う。

[委員]

教育長が言われたように、市長や教育長がメールなどの犯罪に対して警察署と協力して取り締まりや、見回りを強化しますと大々的に出せば、多少の抑止力にはなると思う。現実問題難しいかもしれないが、どんどん出してほしいと思う。かなり前になるが、襲うという内容のメールが保育園に届いたときは、頻繁に交番の方が来てくださった。だから、市長や教育長など上の方が、対外的に諫早はこうしますということをしていただければ、抑止力にもなるのではないかと思うので、どんどん出していただけたらと思う。

《学校教育課長の報告》

令和4年度ALT（外国語指導助手）について

《学校教育課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《非公開議事》

報告第 8 号 臨時代理の報告について（諫早市社会教育委員の委嘱について）

生涯学習課長 説明

削除

了承

報告第 9 号 臨時代理の報告について（諫早市公民館運営審議会委員の委嘱について）

生涯学習課長 説明

削除

了承

《追加議題》

議案第 1 5 号 諫早市図書館協議会委員の委嘱について

生涯学習課長 説明

削除

原案可決

その他

教育総務課長

- ・ 8 月臨時教育委員会及び 8 月定例教育委員会の日程について説明
- ・ 学校給食費支援事業（給食費単価）について説明

1 5 時 0 0 分閉会